

## 子どものニーズと地域をつなぐ活動『書道教室』

(担当：子ども家庭部子ども育成課子ども育成係西砂児童館)

### 事業の背景・目的

児童館の利用者アンケートで、「冬休みの書初めの宿題に苦労している、行事で何かやってもらいたい」との要望が複数あったのをきっかけに、平成30年度から継続実施。利用者及び保護者のニーズと、地域の子育て支援力をつなぐことも目的の一つとしている。

### 事業の概要

#### ・実施場所

西砂児童館工作室。書道用具は、原則として参加者が自分の道具を持参。まだ道具を持たない下級生には、児童館の行事費で購入、および地域からの寄付でいただいたものを活用している。半紙・墨汁などの消耗品は、同じく行事費で購入している。

書初め用の大きな下敷きは、講師が持ち込んでくださったものを使用させていただいている。

#### ・実施頻度

毎年1月4日～6日の間で2日～3日間、午後2時～4時

#### ・職員体制

地域のボランティア講師1名、職員（常勤）1名がサポート。

#### ・事業の実施方法

公設民営の児童館運営の中で行事の実施。

児童館アンケートで要望の上がっていた書初め教室を、地域の協力を得て実現。普段、貸館で卓球の練習の為に来館している隣接団地の方をお願いしたところ、快諾をいただき、ボランティア講師をひきうけていただいた。

書道の師範で子どもへの指導経験もあるとの事で、初年度から3年間、毎年指導いただいている。



## 工夫点・留意点

同日に児童館内で行われる「昔遊びの日」イベントと組み合わせ、伝統技能や伝承遊びに触れる2日（3日）間として企画した。

部屋のスペースの都合もあり、事前申し込み制、対象は小学生～中学生に設定。

## 事業の効果

講師が、地域の民生児童委員を務めていることもあり、児童館の事をよく理解し、子どもたちの様子も気にかけていただいて、年々信頼関係が濃くなっている。

コロナ禍になってからは定員を例年の半分以下に絞ったこともあり、申し込み開始早々に定員に達し、さらに数件はお断りしなくてはならず、ニーズの高さを感じる。3年間参加している児童も多く、さらにその妹たちが、兄姉に連れられて参加するようになっている。初めて毛筆に挑戦する2年生は、慣れない筆に苦心しながらも、2時間集中して、懸命に手本と向き合っていた。

講師の方の声掛けが的確で、短時間でも子どもたちの書き方が変化し、お迎えにきた保護者も、「家で書くのと全然違う、来させて良かったです。」と喜んでいました。

継続していきたい行事である。

## 課題・今後の展開

年が明けてから学校が始まるまでのわずかな日数の中で実施するため、定員を絞らざるを得ないのが実情。ただ、定期的に書道の指導を受けたいという保護者や児童の声もあり、正月時期に限定せず、もう少し広げていける可能性は大いにある。

さらに、学校を拠点として地域と学校が連携しながら子どもを育てていくという、立川市の「学社一体」方針に基づき、児童と地域社会を結ぶ大きなきっかけとしても、今後のさらなる発展継続を目指す。